

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Relationship between the Mediterranean Diet Score in Pregnancy and the Incidence of Asthma at 4 Years of Age: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠中の食事の地中海食指標と4歳時点での1型アレルギー罹患の関係

ユニットセンター(UC)等名: 南九州・沖縄 UC

サブユニットセンター(SUC)名: 熊本大学 SUC

発表雑誌名: Nutrients

年: 2023 DOI: 10.3390/nu15071772

筆頭著者名: 中野 魁太

所属 UC 名: 南九州・沖縄 UC

目的:

地中海食は地中海沿岸地域における伝統的な食事様式であり、健康食のひとつとして注目されている。近年、妊娠中の地中海食摂取が出生した児のアレルギー疾患の罹患に影響を与えることが報告されたが、大規模な解析は行われておらず関連性はまだ明らかではなかった。また地中海沿岸地域外での解析もされていなかった。本研究では日本における妊娠中の食事の地中海食指標への遵守性と出生児のアレルギー罹患の関係性について解析を行った。

方法:

エコチル調査のデータから、妊娠中の食事内容のアンケート結果、出生児の4歳時点での1型アレルギー罹患を抽出し、最終的に46532組の母子を対象とした。妊娠中の食事内容から地中海食スコアを算出し、高得点群と低得点群におけるアレルギー罹患率の関係性について解析した。本研究では複数の地中海食指標(MDS、rMED、PMDS)を用いてスコアを算出し、それぞれの結果を比較した。さらに、地中海食スコアを算出するための基準値を地中海沿岸地域のものからエコチル調査の食事調査の結果から得られた値に変更することによる影響も検討した。

結果:

これまでの地中海食研究において指標として汎用されているMDSおよびrMEDでは高得点群と低得点群の間の1型アレルギー罹患率に有意差はなかったが、妊婦用の地中海食指標であるPMDSを用いた解析では、高得点群の妊婦から出生した児では喘息罹患率が有意に低いことが明らかとなった(高得点群:7.9%, 低得点群:8.8%, オッズ比:0.896)。また、PMDSを算出するための基準値を地中海沿岸地域の基準値からエコチル調査で得られた値に変更すると、結果が大きく変わることも明らかとなった。

考察(研究の限界を含める):

本研究では、エコチル調査のデータを活用することで、妊娠中の食事の地中海食指標への遵守性が出生児の喘息罹患率を低下させる可能性を示した。また、地中海食の健康効果の評価には適切な地中海食指標の選択と基準値の選定が重要であることも明らかとなった。しかし、地中海食がどのようなメカニズムで喘息の発症に関与しているかは明らかではない。また、食文化の異なる地域での地中海食指標の算出が適切かどうかについても今後更なる検討が必要である。本研究の結果は地中海食スコアを用いた解析が日本でも適応可能であるという可能性を示唆しており、今後の地中海食の研究が地中海沿岸以外の地域へと進展することが期待される。

結論:

妊娠中の地中海食らしい食生活は出生児の4歳時点での喘息罹患率を低下させる可能性がある。また、地中海食による健康効果の評価では、適切な指標と基準値を選択する必要がある。適切な地中海食指標と基準値を設定することで、地中海沿岸地域以外にも地中海食の健康効果を解析可能であることが示唆された。